

人口減「緩めたい」

若者の札幌流出課題

小樽 道内9位に

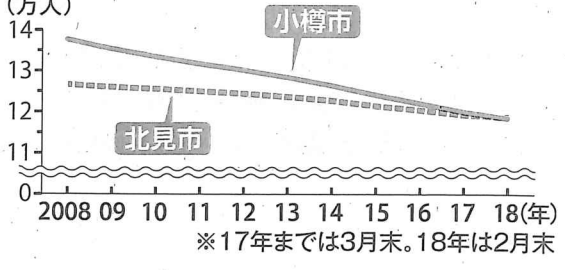
小樽市の2月末時点の人口が11万8475人となって北見市に抜かれ、道内人口9位に転落した。昨年末には江別市に抜かれており、3カ月で順位を二つ下げた。人口対策を担当する小樽市企画政策室は「減少に歯止めがかからず残念。何とか減少ペースを緩めたい」と頭を悩ませている。

(渡辺佐保子、元井麻里子)



16年3月に閉校した旧北手宮小。周辺には雪が積もり人影はほとんどない

小樽市と北見市の最近10年間の人口推移



2月末の住民基本台帳によると、小樽市の人口は前年同月比で1967人減少。北見市は同1166人減の11万8623人で、小樽市を148人上回った。

小樽市の人口減の背景には転出が転入を上回る社会減と少子高齢化がある。社会減は1959年に始まり半世紀以上も続く。市の2015年の調査によると、13年の転出超過数の約5割を20代が占め、若者の流出が課題だ。市企画政策室は「進学や就職のタイミングで隣の札幌市に移ってしまう例が多い」という。

少子高齢化も進む。人口に占める65歳以上の割合を示す高齢化率は2月末で39.1%と4割に迫り、10年間で10ポイント上昇した。出生数も減って16年3月末には5小中学校が閉校。今年3月末は4小中学校が閉校する。

この状況に地元業者から懸念の声が上がる。小樽サンモール一番街商店街振興組合の三ツ野篤久理事長(66)は「(人口減は)大変困った話。小樽は道河や歴

史的建造物など観光資源にも恵まれているのに、利点を生かして人の流れを作る総合プロデュースに欠ける。働く場所がなく若者も住みにくい。市をはじめ行政には、その先導役をお願いしたい」と注文する。

市は人口減の要因と対策を採るため本年度、小樽商大と共同研究に取り組んでいる。市民アンケートを基にした分析結果は3月末にまとまる予定で、市企画政策室は「分析結果を基に、6月をめぐりに対策をまとめたい」としている。

※本学が小樽市と共同研究で取り組んでいる課題です

毎日新聞 30年3月13日 (朝刊) ※本学の後期試験にも言及しています



職員から問題用紙を配布される受験生—札幌市北区の北海道大で

北大など6大学 国公立後期試験

国公立大入試の2次試験後期日程が12日始まり、道内は北海道大など6大学で学力検査や面接などがあった。道教育大など一部の大学では13日も試験があり、20、22日に合格発表される。

北大は後期でも第1段階選抜は実施せず、4014人出願者のうち1727人が受験。募集人員493人(特別選抜のAO入試の欠員補充の6人を含む)に対する平均倍率は、

この日実施したのは北大のほか、道教育大▽旭川医大▽北見工大▽札幌市立大▽名寄市立大。小樽商大と帯広畜産大、室蘭工大、はこだて未来大の4大学は個別試験は実施せず、大学入試センター試験の結果で合否を決める。

北大は後期でも第1段階選抜は実施せず、4014人出願者のうち1727人が受験。募集人員493人(特別選抜のAO入試の欠員補充の6人を含む)に対する平均倍率は、昨年より0.1倍低い3.5倍。試験は午前9時半から始まり、受験生たちは総合問題、理科、数学などの筆記試験のほか、小論文、面接に臨んだ。【坂本智也】